

No. 724 (一九九九年一月一・二日合併号) から

No. 756 (一九九九年二月二日) まで

No. 724 (一九九九年一月一・二日合併号)

◇巻頭言◇

どこから反撃の準備を始めるか

松原 広

必ず時代は動き出す

松枝 佳宏

―労働者運動と政治の拠点を職場に地域に―

チェ・ゲバラの精神は生き続ける

富山 栄子

―冷戦後の時代を生き抜く社会主義―キューバ革命(二)―

「あれ本当に共産党の人か？」

―共産党の柔難路線の検証―

山村 竜

最近の社会主義の論争の一断面

松尾 匡

―『二〇世紀社会主義の意味を問う』を中心に

「ユーロ」とは何か

伊勢 太郎

―ヨーロッパ市場と世界経済のゆくえ(上)―

読者からのおたより

編集部だより

No. 725 (一九九九年一月二日号)

◇巻頭言◇

新自由主義路線の自自連立

上野 建一

大量失業時代の構図

◇労働運動の再生・強化にむけて◇

鈴木 勉

『大衆闘争路線と活動家づくり』常に意識した闘いの構築を

旅費日当廃止・行革攻撃から学ぶ

正義は勝ち、不正義は赤恥をかく

名古屋 哲一

―郵政四・二八反処分闘争、最高裁決定(国鉄闘争と共に)―

ヨーロッパ「社民政権」が問われる

伊勢 太郎

―「ユーロ」導入で世界経済はどうなる(下)―

川口武彦先生と私

銀行、土建屋・不動産救済予算と日本経済のゆくえ

新しい労働組合が生まれた！

読者からのおたより

No. 726 (一九九九年二月一日号)

◇巻頭言◇

国鉄闘争勝利にむけた「座り込み」参加激励のお願い

国労新橋支部

国労新橋支部が率先、「座り込み行動」

◇特集◇ 九九春闘と労働運動強化の課題

インフレからデフレへ ― 連合、全労連の春闘方針から―

労使パートナーシップで日経連は希薄化 ― 日経連臨時総会から―

労働組合組織率減少の真因 ― 労働省「労働組合調査」から見えてくるもの―

電機労連が春闘終焉論を提案

さしちがえる迫力を ― 労働組合発展のために―

労働運動が直面する五つの課題

読者からのおたより

No. 727 (一九九九年二月一日号)

◇巻頭言◇統一自治体選挙に勝利しよう

岡崎 ひろみ

― 人が人として生きるために―

職場実態を無視した提案の『差し戻し、白紙撤回』を

― 京成労組電車支部に二六六名人減らし合理化提案―

◇一二月一八日最高裁決定続報◇ 全通本部は謝罪しなければならないはず

組合資格と慰謝料支払いが確定

組合旗はやっぱり赤がいい

読者からのおたより

99春闘彼我の攻防(付録)

No. 728 (一九九九年二月二一日号)

◇巻頭言◇ 共産党の労働運動論

伊勢 太郎

神戸空港・住民投票運動の中間報告

原 義弘

― 「住民投票運動から新しい神戸を創る会」結成へ―

三五人以下学級を実現する佐賀県民の会

― これでもかッ! ドーンと三〇万筆、県議会に提出―

◇資料◇ 抗議声明

住民の思いを受けとめるのが地方自治の本来の姿

政権研究班

― 自連立と働く者の任務―

年度末までに改革法承認をテーマに臨時大会 ― 国労中央委員会での論議から―

「タイタニック」の楽しみ方

戦争論

21世紀は「二〇〇一年」から

読者からのおたより

No. 729 (一九九九年三月一日号)

◇巻頭言◇ 「吉野川河口堰」住民投票と直接民主主義

藤澤 晃

強制配転を永遠に告発する ―今にみておけ、職場を変えてやる―

「ファミリー春闘」にしよう ―一九九神戸地区春闘方針―

ドイツでストライキ拡大か ―失業者は六二五万人超に―

稲村 守

この秋、すでに審査のパニック

―介護保険に関する自治体キャラバン・アンケート調査から―

◇資料 住民の願いにかなう介護保障をめざして

自治体キャラバン & アンケートの総まとめ

読者からのおたより 編集部だより

No. 730 (一九九九年三月一日号)

◇巻頭言◇ 情報公開法案の諸問題

山崎 正平

『新ガイドラインと「北朝鮮脅威」論』(上)

日本をアメリカの前線基地化していいのか

若林 ひろし

―アメリカの一九九八年東アジア戦略報告―

ドイツ「春闘」四%超で合意 ―ストライキ回避へ―

自・自・公の定着で悪法は悠悠―ロコツな自・公妥結―

上野 建一

エッ? 遅刻二回で解雇!―こんな懲戒解雇が通るなら、誰一人安心して働きません

調べれば調べるほど不安は増大―介護保険で福祉はどうなるの―

滝野 嘉津子

◇資料 介護保険に関する市町村への要求事項

ゆき届いた介護体制とノーマライゼーションの確立をめざして

読者からのおたより

No. 731 (一九九九年三月二一日号)

◇巻頭言◇ 「生活の国有化」要求するとき

伊勢 太郎

勝ちたい! 一日も早く早く安心した生活を取り戻したい

千葉 真貴子

国労「改革法承認」で臨時大会

編 集 部

「新ガイドライン」と「北朝鮮脅威」論(下)

若林 ひろし

戦略目標は同じ、異なる追求方法 北朝鮮脅威論から卒業せよ

コソボをめぐるクリントンの混迷

稲村 守

ドイツのようなやり方見習え

―京都総評が失業者にアンケート―

言語道断! 公務員ヘルパー切り捨て ―神戸市六五名のを職種転換へ―

滝野 嘉津子

矛盾多い介護保険 ―保険料は高まり、福祉水準の低下必至―

資料1 第一号被保険者の所得段階別保険料の設定方法(案)

資料2 要介護度と支給限度額

◇投稿◇ 一人で百回動くと自覚したときから:

読者からのおたより

No.732 (一九九九年四月一日号)

◇巻頭言◇ 「護憲」のみなさんに訴える

世界大恐慌への「地鳴り」が聞こえる

「政治の言葉」と「市民の運動」

「経済整合性」賃金論の破たん

連合の「主張」はやっぱり「春闘終焉論」

―労働者の“力”を示せ―

「雇用流動化」が問うもの

「差別」は許されない

―商品券ばらまきと「国鉄闘争」―

零下マイナス九度の駅前で座り込み

―北海道闘争団交流に参加―

大企業に介護まかせていいの

―福祉の領域守れ！ 地方選で反撃を―

◇資料 介護保険導入に係る県民及び事業所アンケート調査(抜粋) ◇

民間事業所ヒヤリング(株式会社A、株式会社F)

読者からのおたより

政権研究班

滝野 忠

松枝 佳宏

伊勢 太郎

毛利 孝雄

滝野 嘉津子

No.733 (一九九九年四月一日号)

◇巻頭言◇ 住民自治を確立し憲法をくらしに生かす

自治体選挙を民主主義闘争として闘いぬこう

やっぱり「国鉄改革法」は認められない

―国労「臨時全国大会」を北海道の地で―

◇資料◇ 国労臨時大会に参加された皆さんへ(国労仙台地本郡山工場支部青年部)

国鉄の時のように、もう一度同じ会社で働きたい

緊迫感の持続を、言葉でなく実践を

食糧、エネルギーはかなり深刻

―朝鮮民主主義人民共和国の近況―

「朝鮮半島情勢」理解のために

―パンフレット『最近の朝鮮半島情勢と日米安保の新ガイドライン』をすすめる―

総保守の宿願は憲法九条の改悪 政権研究班

―護憲勢力の当面する課題(二)―

労働組合運動の原点に返る

―九九春闘が明らかにしたこと―

◇資料 日経連会長コメント(三月一七日) ◇

賃上げだけが春闘ではない

読者からのおたより

No. 734 (一九九九年四月二一日号)

◇巻頭言◇あなたの主張こそ国鉄闘争の大道

大木 五郎

—A氏投稿(社会通信七三一号)に対する私の感想—
ヨーロッパの空で本格的戦争が始まった

編集部

—NATO軍、ユーゴに武力介入—
窮極の「不況脱出」策?

一石 利休

—サマータイムが変えるもの—

介護保険—地方自治体でもこれだけできる—東京・武蔵野市の問題提起—

資料1 武蔵野市『介護保険ブックレットⅡ』(一九九八年十二月)

厚生省に期待する 介護保険の大胆な改革を! 再び、問題提起と提言

資料2 武蔵野市『介護保険ブックレットⅠ』(一九九七年九月)

保険者とされる武蔵野市からの提言

読者からのおたより

No. 735 (一九九九年五月一日号)

◇巻頭言◇労働運動「再建」への道

滝野 忠

「コンボ」の次は朝鮮半島も—アメリカの「新戦略構想」の危険—

編集部

総保守の「新たな陣型」—護憲勢力の当面する課題(三)—

政権研究班

政治の反動化はさらにすすむ—石原慎太郎当選の意味—

「心理作戦」実行で景気は回復するか—「ゼロ金利」「マイナス金利」の背景—

アメリカ貿易赤字、史上最高に

労働組合を知るための座談会—そこが知りたい:朝まで生討論—

県職労福祉・医療スタディツアー報告

牧田 正樹

—ドイツの介護保険について—

読者からのおたより

編集部だより

No. 736 (一九九九年五月一日・二一日号)

◇巻頭言◇「譲れない要求」を勝ちとるまで闘いは続く

国労紋別闘争団

「社会主義」を考える時

労働運動研究班

—大量失業時代の背景と解決の道—

「コンボ」||ユーゴ空爆と「新ガイドライン」は一体

編集部

—NATOの「新戦略構想」と日本—

「軍事大国的国家体制」との対決

上野 建一

—「総括活動」のなかから今後の方針確立が重要—

地方から政治はどう変わる

政権研究班

—戦争に反対する民意をつくる—

失われた大衆路線

若林 ひろし

五・二八大決起集会、そして国会前座り込み

読者からのおたより

No. 737 (一九九九年六月一日号)

◇巻頭言◇ ダメ経営者の首を切る | 日経連総会の報告と感想

能力・成果主義に向け見直しすむ | 日経連第五二回定時総会労働情勢報告 | 運輸関連労組が、「反ガイドライン」で共同行動 | 沈滞、停滞の中に新たな動きも | 揺れる「朝日」「毎日」の憲法観 | 新聞ジャーナリズムの憲法動向(上) | 夫婦で名刺四万枚

— あらためて、「原則通りの運動」の重要性を痛感 —

空港より福祉・雇用、自治体を戦争に巻きこまない

— 「自治」の確立へ運動をつよめよう —

組織後退のなかでの労働運動の高揚

— フランスの組合・争議研究の動向(一) —

読者からのおたより

小林 義昭

松枝 佳宏

松村 文人

No. 738 (一九九九年六月二一日号)

◇巻頭言◇ 新ガイドラインは「戦争参加の大事な話」

『諸君』(一九九九年六月号)で小沢一郎がホンネ

「解決」へ政治が始動 | JR採用差別事件に大きな動き |

資料1 国労「声明」(一九九九年五月二五日) 政府・与党の決断に、積極的に対応

JRはゆるせない | 国労・九州闘争団、激励され記

学習、交流、集会が闘いの柱 | 九九春闘総括 |

組織後退のなかでの労働運動の高揚

— フランスの組合・争議研究の動向(二) —

平和、沖繩、国鉄闘争 | 沖繩平和行進参加報告 |

読者からのおたより

松村 文人

佐野 周二

No. 739 (一九九九年六月二一日号)

◇巻頭言◇ 「謝罪、JR復帰」が解決の条件

「連合政治センター」設置へ | 「民主・リベラル労組会議」は解散 |

◇資料と解説◇ 政・労・使の「雇用政策」の検証

雇用危機突破・雇用創出策の具体化について

— 日本労働組合総連合会(一九九九年五月二〇) —

雇用・失業対策に関する緊急要求 | 全国労働組合総連合(一九九九年四月三〇日) |

整理解雇制限法案要綱(案) | 全国労働組合連絡協議会(全労協) |

政府の雇用・産業競争力強化策(要旨)

日経連「新時代の労使関係の課題と方向」(九九・五・十三) 四、新時代の労使関係の方向

日経連総会での新会長あいさつ(九九・五・十三)

— これからの日経連活動の基本的な姿勢 —

一九九九〜二〇〇〇年度の重点政策の要求(案)

— 連合「政策・制度要求と提案(九九・五・二〇)」 —

怒りを行動に、反合理化の闘いを進めよう!

— 電車支部経協『業務効率化案』十二回目 —

読者からのおたより

藤保 美年子

No. 740 (一九九九年七月一日号)

◇巻頭言◇ 「日の丸」「君が代」は明治政府よりもっと悪い

滝野 忠

公明の連立入閣は選挙協力にかかる

上野 建一

労組「定期大会シーズン」に

敵は我にあり、歴史は味方なり | 己を知るは第一歩 |

野上 昭

勝利の確信のもとに前進を

佐野 修吉

| 中労委第一準備書面(東京高裁北海道・九州事件)を読んで |

九五年公共部門争議の分析 | 六八年「五月革命」以来の全国争議

松村 文人

| フランスの組合・争議研究の動向(三) |

国連は時代遅れ、世界秩序はオレがつくる | ユーゴ空爆とアメリカの意図 |

読者からのおたより

No. 741 (一九九九年七月二一日号)

◇巻頭言◇ 自然科学と社会科学

鈴木 賢二

| ふたたび「客観的情勢」ということについて |

集まり、学習し、議論する | 問われる労働組合の原点(二) |

滝野 忠

失われた十二年間回復を | 国労闘争団全国代表者会議が「解決要求」 | 野上 昭

資料 国労闘争団が求める解決要求(一九九九・六・七)

キューバ諸組織が、アメリカに損害賠償請求 | 友好諸政党、諸組織への訴え |

九五年公共部門争議の分析と組織率のゆくえ

松村 文人

| フランスの組合・争議研究の動向(四) |

「出前の社会通信」学習会に十五名

佐藤 憲一

介護保険先どりの改悪すすむ

滝野 嘉津子

| 事業計画策定委員会の議論の他で |

読者からのおたより

No. 742 (一九九九年七月二一日号)

◇巻頭言◇ 住民投票に二分の一以上の成立要件

藤沢 晃

吉野川第十堰住民投票条例の成立と今後の課題

「日の丸」・「君が代」は国旗・国歌にふさわしくない

若林 ひろし

集まり、学習し、議論する

滝野 忠

| 問われる労働組合の原点(二) |

新たな「帝国主義」宣言 | G8「首脳宣言共同声明」について |

旧総評の方針はさらに稀薄に | 連合十周年大会に準備すすむ |

編集部

経営責任をとれ

全通中丹

◇書評◇ 「ソ連国家資本主義論」マルクス理論とソ連の経験」

松尾 匡

パレツシユ・チャトパダイヤイ著 大月書店

◇投稿◇ 二一世紀、子供達に戦争のない世界を

南 彩雲

読者からのおたより おわびと訂正

No. 743 (一九九九年八月一日号)

◇巻頭言◇ 神戸港を軍港にするな

《ユニオン》っておもしろい ―はじめての団体交渉で勝利!―

キヤリアは定年延長 ―国家公務員「定年延長」の虚と実―

われらかくたたかう ―国労闘争団ニュースから―

「全面要求」と「反合理化」の前進に向けて ―現局面に思うこと―

反動期と敗北主義について

新連結決算制度の危険

読者からのおたより

上野 建一

No. 744 (一九九九年八月二一・二二日号)

◇巻頭言◇ 言葉と事実 ―「労働貴族」の発想法

戦後の反勸化のシンボル ―「国歌・君が代」復活に工作―

われわれは歴史の岐路にある ―新ガイドライン体制と朝鮮―

憲法九条改悪めざす「二十一世紀臨調」

―ユニオン連合はその有力組織―

「鉄道員」(ポツポヤ)を読み観て ―労働者の生き様と階級性―

◇資料 国労闘争団旭川地方連絡会議要望書(九九年七月一七日)◇

「納得のいく解決」を勝ちとるまで全力で闘う

国労の全面解決要求実現に向けて

読者からのおたより

若林 ひろし
横堀 正一
滝野 忠
横田 厚

◇付録◇職場の生の声が聞こえない! ―組合大会前半裁の特徴

No. 745 (一九九九年九月一日号)

◇巻頭言◇ 厚生省は得意満面、自治体は危惧

介護保険実施前の諸模様

資料1 京都保険医協会(一九九九・一)

介護保険要介護認定一次判定コンピュータソフト等制度改善についての要望

資料2 東京都武蔵野市(一九九九・七)

厚生省十一年度要介護認定基準案検証事業(第一次判定ロジック検証)

いま、国労に求められているもの ―国労大会を前にして―

自白公連立政権はどうなる

「郵政事業の民主化」から「郵政事業の健全な発展」へ

―全通規約の「改正」について―

自然と根性と元気をもらった旅

―フラリと音威子府闘争団と交流(一)―

苦しきにも笑い、展望失わぬ力強さ

―フラリと音威子府闘争団と交流(二)―

ブレーキの機能が失われている

◇投稿◇ 制服がない!

読者からのおたより

冊子「輝かせいのち―いのちと人権を考える」のすすめ

渡部 隆一
上野 建一
名古屋 哲一
大木 次男
大嶋 甲三
木村 哲蔵

No. 746 (一九九九年九月二一日号)

◇巻頭言◇ 「戦争の記憶」を引き受け直す

「首切りのすすめ」ガイドランス

— 政府関係文書の特徴 —

山陽新幹線トンネル崩落事故が意味するもの

感想も涙もさまざま

— 運転士としての「鉄道員」 —

保険主義は破綻し、やがて公費に

— 実施前から介護保険の矛盾は次々 —

資料1 武蔵野市介護保険事業計画策定委員会第七回会議

「武蔵野市の介護保険の進むべき方向について」論議の柱立て案

— 一九九九・八・一九、介護保険準備室 —

資料2 京都府保険医協会発行 (一九九九・五・三二)

国の役割

特集「介護保険解体新書」(制度の仕組みと問題点)

読者からのおたより

No. 747 (一九九九年九月二一日号)

◇巻頭言◇ 鳩山 由起夫の異常な言動

連合結成十周年と政治状況

巨大鉄鋼資本に闘い挑む

— 神戸製鋼闘争の闘いの内容と経過 (上) —

「総団結・総決起」への心がまえ

— 国労大会を傍聴して —

資料1 国労闘争団が求める解決要求 (九九・六・一五)

資料2 国労東京第一事業所分会

修善寺大会の意義を再確認し、総団結、総決起の大会へ

資料3 「とうそうだんわっかない」号外 (九九・八・二六)

「運輸省の考え」は絶対認められない

資料4 闘争団・家族を激励し、

国鉄闘争の全面勝利をめざす全国集会 (九九・今二五) アピール

東京都、給与禾給四%、ボーナス〇・五% 大幅カット

— 福祉切り下げへの布石 —

読者からのおたより

訂正とお詫び

毛利 孝雄

滝野 忠

佐野 修吉

佐野 周二

滝野 忠

No. 748 (一九九九年一〇月一日号)

◇巻頭言◇「職場の安定帯」に変化の兆し

滝野 忠

足元から、「抵抗」、「要求」する時代が始まった

出向命令、無効裁判をたたかう

―巨大鉄鋼資本に闘い挑む(下)―

上野 建一

国労共闘は改憲阻止闘争との結合を!

◇資料と解説◇ 東京都の賃金「大合理化」に絶対反対

資料1 「給与の時限的措置」提案に対する都労連声明(九九・九・三)

○不当な「給与カット」提案の「白紙撤回」を要求

資料2 都庁職執行委員会コメント(九九・九・三)

組織の総力をあげて闘い抜白川

市政転換へ今秋、市長リコールへ

―市長を替えて神戸空港建設ストップ―

東武鉄道、バス部門に大合理化

要介護認定、サービ内容はどうなる

―「調査と判定」体験学習会から―

進む勇氣と退く勇氣

◇投稿◇当局の掌で泳がされるな

読者からのおたより

No. 749 (一九九九年一〇月二一日号)

◇巻頭言◇ 二大政党制は幻想―政党助成金を廃止せよ

J C組合には「日の丸」揚げた組合も

―労組大会、後半の特徴(一)―

情報通信革命で変わる職場

―大企業の中で何が起こっているか―

歴史の必然性を学び実践する団結をつくらう!(一)

―発信しよう一人ひとりのメッセージ―

◇資料と解説◇「日の丸・君が代」法制化と教育

資料 学校における国旗・国家の指導について

平和への分かちあいをともに

―新谷のり子さんのコンサートへのお誘い―

国労「十・三一」団結まつり

読者からのおたより お詫びと訂正

No. 750 (一九九九年一〇月二一日号)

◇巻頭言◇ 神戸空港とリコール運動

― 市長リコールは「ラブコール」

松枝 佳宏

日米合同演習を許すな！ とめよう戦争への道

― 10・31 滋賀県あいば野集會に全国からご参加を―
労働運動強化に「集まり、学習」しようよ

赤峰 正俊

― 第二回読者の会を終えて―

「雇用闘争」「雇用確保」の本道は首切らせないこと

― 労組大会、後半の特徴―

平和運動フォーラム結成へ

有言実行

永田 悦子

― 国鉄闘争との連帯の中で―

十億円で十四兆円の買い物

― 新興アメリカ金融業に長銀をたたき売り―

要介護認定申請が始まったけれど

滝野嘉津子

― 不安と疑問と問題点が噴出―

資料 訪問介護調査員の「介護サービス調査票（特記事項）」

原発はやっぱり廃止しかない

読者からのおたより

No. 751 (一九九九年一月一日号)

◇巻頭言◇ 環境問題と労働運動

藤澤 晃

「社会民主主義政権」の終わりの始ふまり

― ゆれるドイツ社会民主党―

差別は焼き尽くされなかった

筒井 文一

― 原水禁広島に参加して―

求められる人間的連帯の闘い ― 臨界事故、「下関」事件について―

春闘のあり方で電機と全国一般が激突

― 労組大会、後半戦の特徴(三)―

資料 全国一般大会での委員長あいさつ(九九年八月二九日)

「春闘構築」の課題電機労連委員長の大会挨拶に寄せて

押し込まれた現状で進むのは危険……

― 国労北海道本部定期大会終わる―

読者からのおたより

No. 752 (一九九九年一月二一日号)

◇巻頭言◇西村発言と日本の核武装問題

求心力喪失がさらに明確に ―連合大会の報告(上)

障害者就労の現実 パート2

クソ課長・会社に勝った

いまだき湯茶セットのない職場―

改憲阻止を戦略目標に

―白・自・公体制は破綻する―

先生からの最後のメッセ―ジ

―近江谷左馬之介先生と私―

戦後社会保障理念の大転換

―介護保険法は憲法二五条の全面否定(上)―

はやくも特別養護老人ホームで追い出し

読者からのおたより

山崎 正平

町田 一男

政権研究班

津野 公夫

黒川 征一

滝野 嘉津子

No. 753 (一九九九年一月二二日号)

◇巻頭言◇ 国民の臨界はいつおこる

雇用確保・組織拡大の声は高いが

―連合大会の報告(下)―

日産自動車が二万一千人の首切り

―日経連とユニオン連合―

◇資料 1

日産自動車の人員削減策についてのコメント(日本労働組合総連合会事務局長)

雇用の維持・確保が経営の責任

◇資料 2 Nssn Revival Plan に関する日産労組見解(一九九九年十月十八日)◇

徹底した協議・交渉が必要

◇資料 3 全日本金属情報機器労働組合 同 日産自動車支部◇

日産の経営責任をきびしく追及

◇資料 4 「連合」と「日経連」共同の「雇用安定宣言」(一九九九年十月二十二日)

帝国主義軍隊として本格訓練

―「湖西のみち」での日米合同軍事演習―

音威子府で振り返る、国労運動と私

切り捨てられるサービス、負担は増大

―介護保険は憲法二五条の全面否定(下)―

コンピューターによる一次判定性能は三割程度

読者からのおたより

山下 けいき

No. 754 (一九九九年二月一日号)

◇巻頭言◇「小さな」音学会で「大きな」勇氣

滝野 忠

―新谷のり子さんのコンサートから―

「リストラ万能」論で分裂する財界

―ニッサン二万一〇〇〇人首切りの波紋―

◇資料 日経連の回状(一九九九年十月二〇日)◇

労使間での真摯な話し合いが重要

「平和フォーラム」参加組合は二十二

日産京都工場閉鎖で下請け企業はたいへん

稲村 守

―これまでの「合理化」とは雰囲気が違う!―

首切られてからでは遅すぎる

歴史の勉強をやめ歴史をつくろう

小西 純一郎

―元気だったアメリカの労働組合(上)―

『労働者である』ということ

―全通「人事交流」をめぐる議論に寄せて―

天皇在位十年式典は「空振り」―国立大学は文部省の「小使い」か―

合理化の嵐で痛める「乙女心」

―「白紙撤回」の闘いをすすめて―

鹿児島でも市民投票条例制定の署名運動 ―鹿児島湾に「人工島」はいらない―

本屋さんの今と昔

野上 昭

―恋愛映画に見るアメリカ市場主義のいま―

批判と共闘

読者からのおたより

No. 755 (一九九九年二月二一日号)

◇巻頭言◇闘いの高揚は必ずくる

河野 康臣

「戦争の記憶」を引き受け直す

毛利 孝雄

―千代田区平和使節団員として見た坤縄―

連合さん、あなたは労働者の組織

―組合員の苦しみをストライキで現して―

日本の警察権力の現状

政権研究班

迷走する介護保険制度

岡崎 ひろみ

―やっぱり介護は保険でなく公費で―

貧乏人の生活どうするんねん

稲村 守

―「介護110番」の取り組みから―

特養施設への補助金カット!―ドイツでは自治体に支払を義務づけているのに―

急がれる特養施設労働者の組織化

「組合員減少」で組合財政は火の車 ―単組での月額組合資は平均四九五九円―

読者からのおたより

◇巻頭言◇ 向かい風から追い風に — ILOが採用差別事件で日本政府に勧告

資料1 国労コメント(九九・十一・八)

— ILO勧告を「受け止め、全面解決はかれ —

資料2 国鉄闘争支援中央共闘会議「声明」(九九・十一・十九)

— ILO勧告を武器に全面解決めざす —

資料3 労働大臣談話(九九・十一・十八)

— ILOに情報提供

資料4 ILO自由と結社委員会『勧告』(九九・十一・十八)

— ILO九八号条約に沿った解決を期待

資料5 宮里邦雄弁膜士のILO勧告についてのコメント

— JR、政府の責任に言及

集まり、学習し、議論する

編集部

— 労働運動の現状と労働運動強化の課題 —

「富める」国と「貧しい」国の格差は拡大

富山 栄子訳

— 第五四回国連総会でのキューバ外相の演説(一九九九年九月二四日)

フランス「週三五時間労働」が来年実施

伊勢 太郎

— ジョスパン・フランス首相訪日の焦点 —

読者からのおたより